

# 天敵カブリダニ保護装置バンカーシート® の薬剤シェルター効果について

○香川理威<sup>1</sup>・森光太郎<sup>1</sup>・中川博<sup>1</sup>・下田武志<sup>2</sup>・日本典秀<sup>2</sup>

<sup>1</sup>石原産業(株)中央研究所

<sup>2</sup>農研機構中央農研

ミヤコカブリダニ(以下ミヤコ)はハダニ類の防除剤として広く利用されている。しかしながら、圃場で発生するハダニ以外の病害虫防除ために農薬を散布すると作物上から消失してしまうことがミヤコ利用のさらなる普及を妨げている。これらの影響を軽減できればミヤコ利用の普及場面は広がると考えられる。そこで演者らは、ミヤコパック製剤および産卵基質を紙製シェルターのバンカーシート®で包括することを特徴とするミヤコバンカー®による農薬影響の軽減効果を検証した。

まず、ミヤコに影響があると思われる殺虫剤について、ミヤコバンカーへの薬剤散布の影響を温室内の鉢植えイチゴにより評価した。その結果、クロルフェナピル水和剤、ニテンピラム水溶剤、クロチアニジン水溶剤、シアントラニリプロール水和剤は、散布後もミヤコが植物体上で観察され、ミヤコバンカーを使用することで併用可能と判断した。また、ミヤコバンカーから放出されたミヤコは、イチゴの葉上よりもクラウン部分に集中的に分布する傾向があり、この行動により農薬の影響を回避していると推察された。一方、合成ピレスロイド系農薬であるアクリナトリン水和剤はミヤコへの影響が大きく、ミヤコバンカー®を用いても併用は困難と判断した。

次に、スピロテトラマト水和剤灌注処理の影響を鉢植えイチゴにより評価した。ミヤコ個体を放飼した場合は、灌注処理の2週間後および4週後の放飼では影響が大きく、放飼したミヤコが問題なく定着するには少なくとも6週間が必要であると判断した。一方、ミヤコバンカー区では、灌注処理4週後に放飼しても、ミヤコが順調に植物体上で増加したことから4週間には放飼可能なことが示唆された。

※バンカーシートは農研機構・中央農研を中心とした農食事業(実用開発ステージ26070C)で実用化技術が確立された。

Protection effect of Banker-sheet from pesticides.

Yoshitake Kagawa<sup>1</sup>・Kotaro Mori<sup>1</sup>・Hiroshi Nakagawa<sup>1</sup>

Takeshi Shimoda<sup>2</sup>・Norihide Hinomoto<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Central Research Institute, Ishihara Sangyo Kaisha, Ltd.

<sup>2</sup>Central Region Agricultural Research Center, NARO.